

平成27年度 生徒指導にかかわる現状と課題

部長 小池 進輔

1 生徒指導の動向

県は、平成27年度学校教育の重点3に、「いじめを見逃さない、いじめを許さない意識の醸成（「いじめ見逃しゼロスクール」の推進）」を掲げ、下記の①～③の視点を提示している。これを受け、各郡市では、その実態に応じた様々な取組が行われた。

① 未然防止、早期発見・即時対応のための生徒指導体制の強化

ア いじめ防止基本方針の実効性を高める取組

上越・柏崎刈羽では、各校のいじめ防止基本方針に基づいた情報交換や講話をとおして、校内の指導体制を確立しながら、保護者の理解を促すための研修を深めた。

イ 温かい学級づくりをととした未然防止の取組

燕では、Q・Uの分析と活用についての講義や演習を行い、その後の各校の学級づくりや生徒指導に生かす取組が行われた。魚沼では、市教委の「温かい学級づくり支援事業」との関連を図りながら、人間関係づくりにかかわる研修をねらった。

② 学校間、家庭、地域、関係機関との連携に基づく指導・支援の充実

ア ネットいじめ対策・情報モラル教育の充実

糸魚川・長岡三島・見附・魚沼では、SNS等、ネット環境の現状と課題、保護者・教師の役割等について情報交換や講話、演習が行われた。柏崎刈羽では、中学生がメディア共同宣言を出したのを契機に、メディア学習をし、関係機関と共同でメディア宣言を出した。長岡三島でも、市P連が「ゲーム・スマホ・SNS市P連ルール」を作成した。

イ 関係機関の専門性を生かした研修等

各郡市で、警察・市教委や保護司会からの情報提供、文部科学省・県立生涯学習推進センター・市教育相談関連機関・大学等からの研修機会の提供が為された。

③ 社会性の育成をととした、いじめを生まない風土づくり

ア 授業づくりと生徒指導の一体化を目指した取組

新潟では、市教委発行の生徒指導ガイドブックに基づき、生徒指導との一体化を図る研究授業を行い、理論と実践を関連付けた研修を行った。

イ 児童主体の取組をととした社会性の育成

長岡三島では、市内の児童会代表が一堂に会し、児童会運営上の課題をどう解決していくか、意見交換を行った。

ウ 校種を越えた連携による社会性の育成

魚沼では、中学校区ごとに「夏休みのきまり」について情報交換し、連携を深めた。南魚沼では、どの活動においても中学校区内及び学校間・校種間の情報交換を重視し、支援や連携の在り方について研修を深めた。柏崎刈羽・長岡三島・糸魚川では、中学校区を単位とした児童・生徒主体の「いじめ見逃しゼロスクール集会」等や「地域連携フォーラム」をとおして、いじめ根絶運動や中1ギャップ解消を推進した。妙高では、保育園・小・中・特別支援学校の部員が情報交換を行ったり講演を一緒に聞いたりする中で、相互理解を進め、研修を深めた。

2 生徒指導の課題

いじめ・不登校等の生徒指導上の諸問題の解決のためには、校内の指導体制の強化を図ることは勿論、校種を越えた連携、地域・家庭、関係機関等との連携を情報面・行動面の両方から充実させていくことが重要である。今後の課題は、各郡市の取組に学び合いながら、郡市ごとの実践や連携の質を一層高めていくことである。